

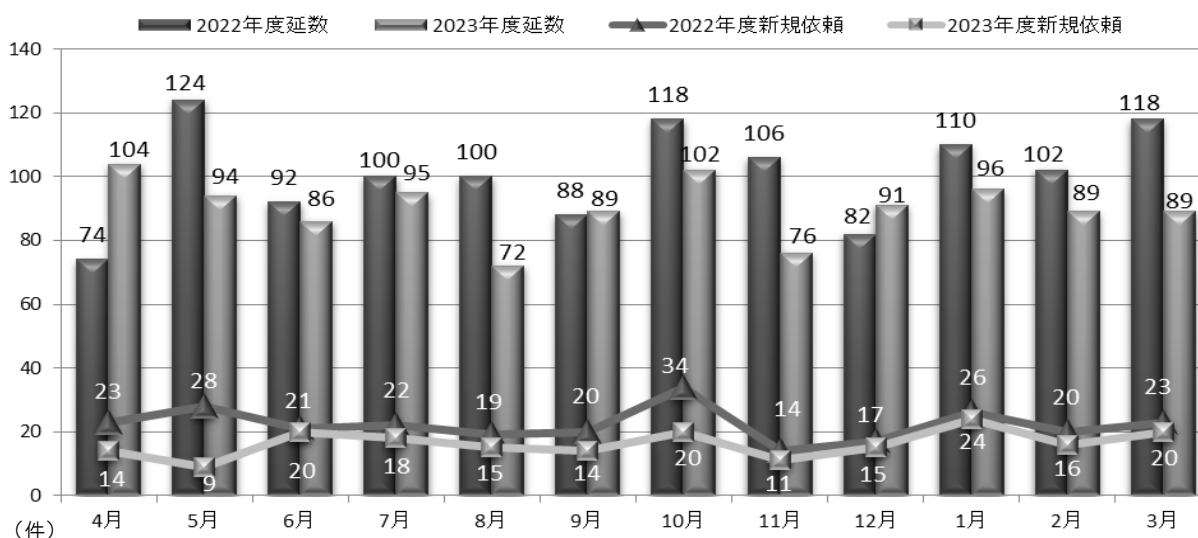
VIII. 精神科リエゾンチーム



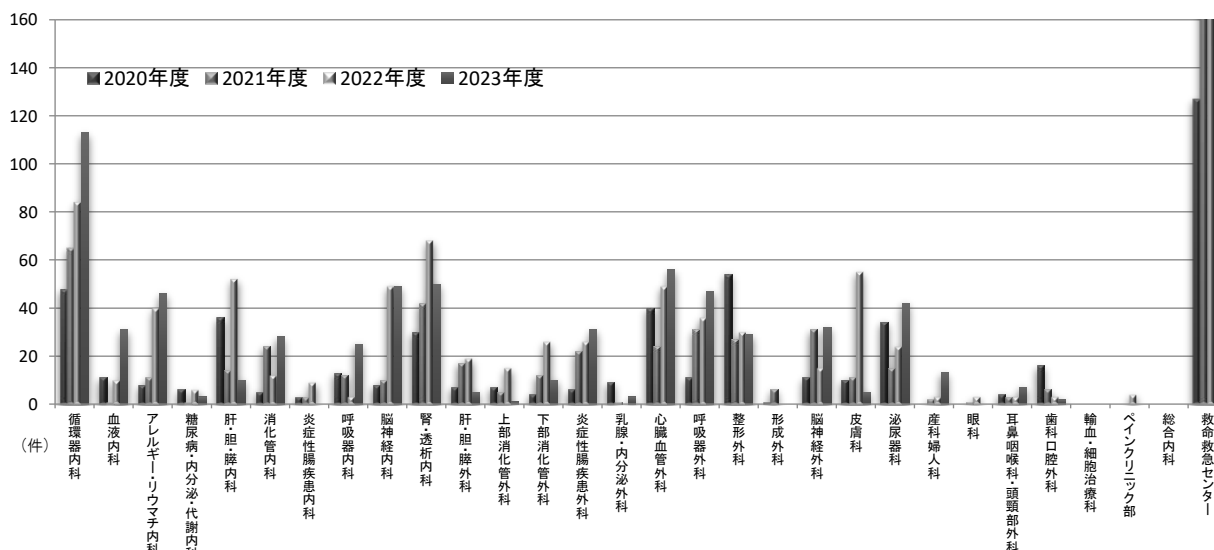
救急病棟や内科病棟に入院する症例の中には、精神的な問題を生じる割合が少ないことは周知の事実である。精神科リエゾン医学はそういった、一般病棟での精神的な問題に対応するために発展してきた「身体とところをつなぐ医学」と言える。精神科リエゾンチームは、この精神科リエゾン医学の考え方を基に、多職種が連携し、身体とところのつながりに焦点をあてた医療や支援を目指し、2012年10月から活動を始めた。2023年度の実施延件数、新規依頼件数および診療科別の推移は以下の通りである。

2023年度における件数をみると、前年度に比べ、新規依頼件数、延べ介入件数はやや減少しているが、前々年度に比べるとなお高い数値を保っており、リエゾンチームへのニーズは変わらず高いといえる。介入した科、疾患は多岐にわたっており、さまざまな身体疾患において、精神的なフォローの重要性がうかがえる。中でも救命救急センターからの依頼件数は新規、延人数とも最大である。これには、救命救急センターにおける継続的な精神科リエゾンチームのかかわりが必要、かつ重度の症例が多いことが考えられる。さらに2022年10月より、自殺企図により救急搬送された患者さんへのサポート体制の立ち上げを行ったことも寄与している。表にはないが、介入を要した精神疾患のうち、最も多かったのはせん妄であり、次に抑うつ状態や不安の高さであった。しかしながら、ニーズが高まっているが、マンパワーが少ないというのが精神科リエゾンチームにおける現状である。その中でも、2024年度は、各科との連携を高め、ニーズに応えられるよう努力をしていきたいと考えている。

VIII-1 年度別月別精神科リエゾンチーム実施延件数（2022年度合計1,214件、2023年度合計1,087件）と新規依頼件数



VIII-2 精神科リエゾンチーム診療科別実施延件数の年度別推移（2020年度合計713件、2021年度合計943件、2022年度合計1,210件、2023年度合計1,087件）



Ⅷ-3 年度別精神科リエゾンチーム診療科別実施延件数

(件)

区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度 構成比率 (%)
循環器内科	38	48	65	84	113	10.4
血液内科	15	11	1	10	31	2.9
アレルギー・リウマチ内科	9	8	11	40	46	4.2
糖尿病・内分泌・代謝内科	23	6	1	6	3	0.3
肝・胆・膵内科	31	36	14	52	10	0.9
消化管内科	2	5	24	12	28	2.6
炎症性腸疾患内科	10	3	3	9		
呼吸器内科	16	13	12	3	25	2.3
脳神経内科	94	8	10	49	49	4.5
腎・透析内科	71	30	42	68	50	4.6
小児科			3	4	4	0.4
肝・胆・膵外科	32	7	17	19	5	0.5
小児外科						
上部消化管外科	15	7	5	15	1	0.1
下部消化管外科	3	4	12	26	10	0.9
炎症性腸疾患外科	21	6	22	26	31	2.9
乳腺・内分泌外科		9	1		3	0.3
心臓血管外科	57	40	24	49	56	5.2
呼吸器外科	27	11	31	36	47	4.3
整形外科	34	54	27	30	29	2.7
形成外科	3	1	6			
脳神経外科	9	11	31	15	32	2.9
皮膚科	8	10	11	55	5	0.5
泌尿器科	19	34	15	24	42	3.9
産科婦人科	2		2	3	13	1.2
眼科			1	3		
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	13	4	3	3	7	0.6
歯科口腔外科	18	16	6	3	2	0.2
ペインクリニック部	1			4		
総合内科	4					
救命救急センター	120	127	279	322	263	24.2
小計	695	509	679	970	905	83.3
精神科神経科	150	204	267	244	182	16.7
合計	845	713	946	1,214	1,087	100.0